

食品安全情報（化学物質） No. 14/ 2026（2026.07.08）別添

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 第三室
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung）
<https://www.bfr.bund.de/en/home.html>

消費者の健康保護における誤情報と偽情報 — 科学機関はどのように対処すべきか？

Misinformation and disinformation in consumer health protection – How can scientific institutions deal with this?

18/05/2026

<https://www.bfr.bund.de/en/service/frequently-asked-questions/topic/misinformation-and-disinformation-in-consumer-health-protection-how-can-scientific-institutions-deal-with-this/>

今日、虚偽や誤解を招く情報は、検証済みの事実よりも速く拡散することが多い。特に健康、食品、化学物質に関しては、こうした情報は不安を招き、科学的助言への信頼を損なう恐れがある。ドイツ連邦リスクアセスメント研究所（BfR）は、消費者のために科学的健康リスク評価を実施し、その結果を分かりやすく伝えることを任務としている。これには、誤情報や偽情報に責任を持って対処することも含まれる。

これらの FAQ では、誤情報と偽情報とは何か、それらがどのように発生するのか、そして科学機関がどのように対処できるのかを説明する。

「偽情報」とは何を意味するのか、また「誤情報」とはどのように異なるのか？

誤情報は、多くの場合、誤りから生じる。つまり、誰かが自分の間違いに気づかずに、間違った情報を伝えてしまうのである。一方、偽情報は、人々を欺いたり不安にさせたりするために意図的に拡散される。明らかに「虚偽」の内容だけでなく、文脈から切り離された正しい情報も、偽情報として利用されることがある。

誤情報や偽情報は、どのような健康リスクをもたらす可能性があるか？

誤情報や偽情報は、人々が誤った前提や事実の理解が不完全なまま健康に関する意思決定を行うことを招き、結果として自分自身や他者に害を及ぼす可能性がある。健康リスクが過小又は過大評価されたり、また不信感が生じることもある。健康危機においては、不信感によって既存の対策が国民に効果がないと見なされ、必要なレベルまで実施されないことで危機管理が遅れることもある。

科学コミュニケーションは、どのように誤情報や偽情報から生じるリスクを最小限に抑える手助けができるか？

科学コミュニケーションは、科学的発見がどのように形成されるかを分かりやすく説明し、人々が情報をより適切に、背景や状況と合わせて深く理解することができるよう支援することで、偽情報を防ぎ、またそれに対抗できる。これには、誤解を招くコンテンツがより容易に発見されるよう、メディアリテラシーと科学リテラシーを高めることも含まれる。もう一つのアプローチは、いわゆる「プレバンキング」で、これは、初期段階で情報を提供し、偽情報が拡散する前に典型的な嘘の形態を明らかにする手法である。誤った情報がすでに拡散している場合は、なぜそれが誤っているかを客観的に、できるだけ明確かつ簡潔に説明することで、誤った情報を不必要に繰り返すことなくデバンキング（嘘を暴くこと）することができる。また、ソーシャルメディアなど、偽情報が頻繁に現れる場所に積極的に関わり、対象となるグループとの対話を図ることも重要である。

誤情報や偽情報に対応する価値はあるのだろうか？その効果はどの程度なのだろうか？

研究結果によると、事実確認と訂正は、概して誤情報や偽情報に対抗するのに効果的である。平均的に、人々は訂正後、検証可能な事実により強く依拠するようになる。しかし、その効果は通常は比較的穏やかで、情報の伝達方法によって左右される。明確で分かりやすく、曖昧さのない訂正は特に効果的である。一方、議論が極端に二極化している場合や、人々がすでに強い信念を持っている場合は、効果は低下する。

なぜ偽情報は、パンデミックや自然災害といった危機において特に重要な役割を果たすのか？

危機の際には、多くの人々が不安を感じ、情報収集に奔走する。そのため、噂や虚偽の報道が特に拡散しやすく、社会や世論に大きな影響を与えることが可能となる。危機の際には、様々な情報源から大量の情報が押し寄せ、いわゆる「インフォデミック (infodemic)」(世界保健機関 (WHO) による) と呼ばれる状況が生じ、さらなる不安を引き起こすことがある。これは、特にソーシャルメディア上で、こうした膨大な情報の中に嘘や誤解を招く情報が紛れ込むためである。

BfR の広報における使命は何か？

BfR は、食品、物質、及び製品が消費者に及ぼす可能性のあるリスク、特定されたリスク、及び評価されたリスクに関する情報を提供する法的義務を負っている。評価プロセス全体は、すべての人に透明性をもって提示されなければならない。BfR は、広範かつ包括的で分かりやすいリスクコミュニケーションを通じて、科学を消費者にとって理解しやすく、利用しやすく、実用的なものとしている。この使命は、特に不確実性が極めて高い状況において、信頼できる情報を提供する上で重要な役割を果たしている。BfR がいかにしてその独立性と透明性を確保しているかについての概要は、ここに記載されている (<https://www.bfr.bund.de/en/service/frequently-asked-questions/topic/risk-assessment-at-the-bfr-independent-and-transparent/>)。

BfR は、流通している特定の情報が虚偽又は誤解を招くものであることを、どのように特定しているのか。

BfR は、関連するトピックに関するメディア報道、特定のソーシャルメディアプラットフォーム、及び科学的情報源を継続的に監視している。さらに、BfR は報道機関や一般市民から年間平均数百件の問い合わせを受けており、そこから新たな傾向やナラティブを特定することができる。さらに、BfR はリスクの認識、早期発見、及び一般市民への影響評価に関する独自の社会科学研究を行っており、これらの調査結果を活用して、広報活動を戦略的に調整している。

個々の主張や議論のすべてについて評価や分類を行うことは不可能である。しかし、BfR に関連するトピックについて、不完全、矛盾、又は虚偽の主張が社会的に大きな注目を集めた場合、BfR はそれらを最新の科学的知見と比較検討する。BfR は、国際的に認められた科学的基準に基づいて評価を行っており、健康リスク評価については一連のガイドラインを策定し、一貫して高い技術的水準を確保している。

近年、BfR は、穀類、イチゴ、グリューワイン、クリスマスツリーなどから検出された残留農薬に関する、広く報じられているが時に不完全なメディア報道に対し、より詳細な健康評価を実施したり、専門的な分析を提供した（文末の関連サイト参照）。また、BfR は「人は週に『クレジットカード1枚分』のマイクロプラスチックを摂取しているのか？」といった、人気のある科学的な疑問にも随時対応しており、その広報活動において、ハザードとリスクの違いといった重要な区別を説明している。

BfR はこの分野でどのような研究を行っているのか？

BfR は、とりわけ一般市民のリスク認識に関する研究を行っている。この研究に用いられるツールの1つが「BfR 消費者モニター (<https://www.bfr.bund.de/en/publications/consumer-monitor/>)」で、これは定期的実施される代表的な集団の調査である。BfR はアンケートを用いて、食品安全、消費者健康保護、及び関連分野における様々なトピックに関する市民の意識、知識、リスク認識を調査している。こうした知見から、世論の動向や変化をタイムリーに把握することは、BfR の活動にとって重要である。これにより、BfR はリスク評価やリスクコミュニケーション戦略をニーズに合わせて調整し、科学的専門知識と世論の潜在的な相違点を特定し、それに応じてリスクコミュニケーションを適応させることができる。

知識や価値観の衝突に関する問題についても研究が行われている。科学的データが受け入れられ、そこから導き出された行動指針が考慮されるかどうかは、個人の知識レベルだけでなく、個人の価値観や信念にも左右される。問題は、事実と異なる情報が拡散されることだけではなく、個人の価値観や見解に合致する情報だけを選択的に拡散することにもある。

メディアコンテンツ研究の分野では、BfR はビタミン D や亜鉛サプリメントなどのフードサプリメントの表現と、ソーシャルメディアプラットフォームでの健康強調表示の使用について調査している。これは、初期調査でフードサプリメントはソーシャルメディア上で

誤解を招くような、又は虚偽の健康強調表示や有効性を表示し、かつ摂取に伴う潜在的なリスクについて一切言及せずに頻繁に宣伝されていることが示唆されているためである。このような行為は、EU の健康強調表示規則に違反する。健康強調表示は、科学的に裏付けられ、EU による評価を受けた場合にのみ認められる。

BfR はどのようなチャンネルや形式で情報を発信しているか？

BfR は、科学的意見、プレスリリース、コミュニケーション、FAQ、科学レポート、パンフレット、ファクトシートをウェブサイトで公開し、多様なソーシャルメディアチャンネル向けに情報をさまざまな画像やビデオ形式に加工している。さらに、BfR は独自の科学雑誌「BfR2GO (<https://www.bfr.bund.de/en/publications/bfr2go/>)」、ポッドキャスト「*Risiko* (<https://www.bfr.bund.de/en/risk-communication/audiovisual-communication/podcast-risk-for-the-ears/>)」、教育漫画シリーズ (<https://www.bfr.bund.de/en/publications/science-comics/>) をプロデュースし、児童書 (<https://www.bfr.bund.de/en/publications/childrens-books/>) を作成している。また、積極的な広報活動の一環として、問い合わせに応じて、書面又は視聴覚形式で可能な限り包括的な専門情報をメディアに提供している。このようにして、専門情報はさまざまな対象グループに届く。内容は必要に応じて更新され、常に最新の知識を反映したものとなっている。

BfR は自らの情報がすべての市民にとって分かりやすいものであることをどのように保証しているのか？

FAQ や意見・コミュニケーションの「What it's about (概要)」欄といった形式では、複雑な問題が事前の知識がなくても理解できるように提示され、専門用語が説明され、背景が概説される。社会科学的研究から、研究のギャップ (不足) や科学的不確実性が強調されている場合でも、明確な言葉と理解しやすい論理が信頼を高めることができることを示している。健康リスクは、常に現在の知見に基づいて評価されるしかなく、そのため、評価には不確実性が伴うものである。ゆえに、BfR は評価において、関連する研究やデータの信頼性がどの程度高いかを透明性を持って説明している。

科学的に根拠のある健康情報が必要な場合、市民として私は何をすればよいのか？

- BfR、ドイツ連邦公衆衛生研究所 (BIÖG)、ロベルト・コッホ研究所 (RKI) などの公的保健機関の情報チャンネルやソーシャルメディアアカウントを活用する。
- 不明な点があれば、直接質問する。そうすれば、専門家から科学的に根拠のある回答が得られる。
- 情報は、(1) 情報源を確認し、(2) 自分にとって重要な内容は複数の信頼できる情報源の評価を参照して検証する。
- 科学的専門知識を持つ情報源からの情報を共有するように心がけ、議論は事実に基づいたものにする。自分自身に問いかけるべき役立つ質問は次のとおり：
 - ・ 情報源は誰か？
 - ・ その主張はどこから出てきたのか？

- ・ その情報源は信頼できるか？

誤情報と偽情報に関する詳しい情報（一部抜粋）はどこで入手できるか？

<全般的な情報>

【EU】 Information manipulation and misinformation

https://civil-protection-humanitarian-aid.ec.europa.eu/resources-campaigns/information-manipulation-and-misinformation_en

【unicef】 A quick guide to spotting misinformation

<https://www.unicef.org/eca/stories/quick-guide-spotting-misinformation>

【カナダ政府】 Online disinformation

<https://www.canada.ca/en/campaign/online-disinformation.html>

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室